業／務／通／信

'92年3・4・5月
花と新緑の中の合宿研修から

学年末の常連ゼミ、新学年のフレッシュマン合宿――春季3ヵ月の宿泊利用者は計二万七八四人。1日平均二二六人、宿舎の稼働73％という、春特有の活況ぶりである。その間の合宿研修から、いくつかの話題を拾ってみた。

●ゼミナール25周年の記念樹

穏やかな早春の陽ざしの中、インターナショナル・ロッジ（記念館）の入口に一株の立派なアメリカハナミズキが植えられた。中国、台湾、韓国などからの留学生や駆けつけたOBたちも、次々とシャベルを手にその根元に土を盛った。東京外国語大学中嶋嶺雄ゼミ「25周年」の記念樹である。昨秋都心で開かれた記念パーティの席上、同ゼミのOB・OG（卒業生はいま二〇〇名余）、現役ら関係者全員からの贈物として「目録」を頂戴したものが、この日の植樹となった。

このハナミズキ、新緑の頃に紅の花をつける。今後は記念館入口のアーチとなり、同館を訪れるおおぜいの内外のゲストを迎えてくれるだろう。ご自分のゼミ合宿での利用に加え、国際プログラム委員会の委員長として国際学生セミナー等の推進にも深く関わられ、またインターナショナル「ロッジ」命名の提唱者でもあられた中嶋嶺雄教授にとって、さまざまな、深い感慨がこめられた記念植樹であったに違いない。〈わたしたちの合宿〉（下掲）に一文をお寄せいただいた。

●新入生合宿で一万人を超える

新入生オリエンテーション合宿のピークはやはり4・5両月で、ほとんど連日学部または学科の大型合宿が繰り広げられた。実施状況は別表（14頁）のとおりで計59グループ（25校）、延べ一万九七五人（うち教職員は七一八人、上級生は七五三人）。4・5両月の新入生合宿で一万人を超えたのは初めてである。これは両月の総宿泊利用者の71％に相当する。

今季初めて実施されたのは①東京工芸大学工業化学科②学習院大学法学部政治学科③中央大学独文専攻④東京学芸大学哲学研究室の四グループであった。短期日のオリエンテーション合宿を効果あらあらしたに違いない。

桜美林大学国際学部の新入生オリエンテーションであいさつする大野一男学長――同校の協力会員校としての初利用となった（'92.4.4）

わたしたちの合宿

中嶋ゼミ二十五周年記念の植樹とともに

東京外国語大学教授　中嶋　嶺雄

私が最初に大学セミナー・ハウスを訪れたのは、たしか一九七二年の第二回国際学生セミナーの時であったから、もう二十年も前になる。この間には、国際学生セミナーや国際プログラム委員会のセミナー、運営委員会の会合などでしばしばセミナー・ハウスを訪れているが、なんといっても私の国際関係論ゼミナールの合宿で来る回数が多い。

従来から私のゼミでは、夏合宿は信州で二泊三日ということになっているけれど、春の卒論・修論発表会を兼ねた合宿は、大学セミナー・ハウスで一泊二日というのが恒例になっている。それぞれの卒論・修論を要約して、各自の専攻語で発表するのが私のゼミの特色だといえようが、この三月七～八日にも、インターナショナル・ロッジでそれが行われ、三・四年生、院生、OB、OGを含め約四十名が参加した。うち十名は中国、台湾、韓国などからの留学生であった。私のゼミでは、この春合宿が実際上の〝卒業式〟になっていて、卒論や修論への最終コメントも、この場で一人一人にたいして行うことにしている。

三月八日の朝は、日本の国際貢献に関する三年生諸君の熱っぽいディベイトが終わった午前十一時半に、インターナショナル・ロッジ正面へ「中嶋ゼミ二十五周年記念」の植樹をさせていただいた。

セミナー・ハウスの丘に来られた方なら誰もが気づくように、そこには沢山の樹木が寄進されている。セミナー・ハウスに永くお世話になった者として、私も植樹させていただこうとはかねてから思ってはいたものの、むやみに申し出てもかえってご迷惑になるので、これまでその機会を待っていた。しかし、木の種類をアメリカハナミズキにしようということは、随分以前からひそかに決めていた。私が一九六七年春に最初に訪米したウィリアムスバーグのロッジ周辺のハナミズキ（dogwood）が実に美しかったからであり、インターナショナル・ロッジというヒントもそこにあったからである。

たまたまゼミの二十五周年パーティが昨年十一月二十九日に国際文化会館で開かれ、飯田宗一郎・名誉館長にもご祝辞をいただいたのだが、そこで綿引二郎業務課長に「目録」をお渡し、今回の記念植樹になったのであった。

当日は日本一のハナミズキ専門という大宮の植木屋さんに来ていただいて、立派な木を植えることが出来た。折りよく和やかな春の日差しの中、岡宏子館長もわざわざお見え下さり、私の年来の〝夢〟がゼミ生諸君の協力で実現できたことは幸せであった。

記念館の入口に植えたハナミズキを囲んで
――中央が中嶋嶺雄教授と（その右）岡宏子館長（'92.3.8）